2026年度（2027年3月期）
第2四半期 決算説明資料

2026/11/09

株式会社商船三井



© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

目次

1.	2026年度 第2四半期　連結決算概要	P.4-6
2.	2026年度 連結業績予想	P.7-9
3.	BLUE ACTION 2035 Phase 2 進捗	P.10-16
	参考・補足資料	P.17-25

(註)金額は億円未満を切り捨て表示（前年同期比・前期比の増減額の計算において、百万円未満切り捨て表示である決算短信と差異が生じている場合があります）

本資料に記載されている当社の業績に関する予想及び見通しは現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、不確実性を含んでいます。このため実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性があることをご承知おきの上、投資に関する決定についてはご自身の判断で行われるようお願いいたします。

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

ハイライト

安定収益の拡大を基盤とした戦略的なリスクテイクにより好市況を捉え、税前利益は当初計画を1,450億円上回る3,450億円の見通し。
総還元性向40%に基づいた株主還元の拡充に加え、投資家層の拡大を目的とした株式分割を実施。

01 税前利益の大幅な伸び

2026年度 税引前当期純利益（億円）

Phase 2策定時 計画	最新見通し
2,000	3,450

+1,450億円 の増益

・安定収益型事業の拡大を基盤とした戦略的なリスクテイクにより、代替トレードに伴うトンマイル増加を背景とした好市況下の収益機会を着実に取り込む
・ドライバルク船、原油船、LPG船、ケミカル船、コンテナ船など幅広い船種が増益に貢献

02 株主還元の拡充

2026年度 総還元額（億円）

Phase 2策定時 計画	最新見通し
700	1,200

+500億円（自己株式取得）

・総還元性向40%を目途とする方針に基づき、増益分を株主還元に充当
・累進配当（年間205円/株*）の700億円に加え、500億円の自己株式取得を実施（取得株式は消却予定）

*株式分割考慮前

03 株式分割（1：3）



投資単位を1/3に引き下げ

・投資単位の引き下げにより、より投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大を図る。
・効力発生日は2027年1月1日
・期末配当は分割後35円/株（分割前105円/株相当）

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

1 2026年度 第2四半期 連結決算概要

＊2026年度1Q決算発表時（2026年8月7日)の予想

（単位: 億円）	2026年度 上期 実績 (註3) 1Q	2Q	上期	2026年度 上期 前回見通し*	差異	2025年度 上期 実績	差異
売上高	7,309	5,440	12,750	12,350	+400	8,697	+4,052
営業損益	385	341	726	650	+76	718	+8
経常損益	521	1,114	1,636	1,260	+376	1,146	+490
税金等調整前当期純損益	680	1,262	1,942	1,590	+352	1,349	+593
親会社株主に帰属する当期純損益	610	1,182	1,793	1,370	+423	1,162	+631
為替 (註1)	¥159.14/$	¥161.09/$	¥160.12/$	¥158.09/$	+¥2.03/$	¥146.09/$	+¥14.03/$
燃料油単価(全油種) (註1･2)	$917/MT	$811/MT	$865/MT	-	-	$546/MT	+$319/MT

(註1) 期中平均

(註2) 平均補油単価

(註3) 2026年度より、毎年3月末日以外を決算期とする当社連結子会社について、毎年3月末日へ決算期を変更しております。

2026年度第1四半期においては、当該連結子会社の6か月間（2026年1月1日から2026年6月30日）の損益を取り込んだものとなります。

MOL 商船三井 © 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

1 2026年度 第2四半期 連結決算概要（セグメント別）

上段	売上高(註1)
下段	経常損益

＊2026年度1Q決算発表時（2026年8月7日)の予想

（単位: 億円）

		2026年度 実績（註2） 1Q	2Q	上期	2026年度 上期 前回見通し*	差異	2025年度 上期 実績	差異
ドライバルク事業	ドライバルク船 (石炭船を含む)	1,771 107	1,495 89	3,267 197	3,140 180	+127 +17	2,184 1	+1,083 +195
エネルギー事業(註3)	原油船、LPG・アンモニア船、風力、オフショア、 LNG・エタン船、ガスインフラ	1,152 150	737 185	1,890 336	1,770 270	+120 +66	1,219 308	+670 +27
ケミカルロジスティクス事業(註4)	石油製品船、ケミカル船、メタノール船 タンクターミナル	1,648 84	837 35	2,485 120	2,400 130	+85 △9	1,302 144	+1,183 △23
製品輸送事業(註5)	コンテナ船、自動車船、港湾・ロジスティクス	2,085 70	1,791 795	3,876 865	3,800 570	+76 +295	2,997 660	+879 +204
うち、コンテナ船事業		311 52	232 681	543 734	540 440	+3 +294	440 239	+103 +494
ウェルビーイングライフ事業	不動産、フェリー・内航RORO船、クルーズ船	363 19	343 △ 7	707 12	730 0	△22 +12	609 8	+98 +3
うち、不動産事業		167 46	138 45	306 92	300 50	+6 +42	229 37	+76 +54
関連事業	曳船、商社等	171 12	176 9	347 21	350 20	△2 +1	277 12	+70 +8
その他		117 18	58 35	175 54	160 20	+15 +34	108 17	+66 +36
調整 (消去・全社)		- 58	- △ 28	- 30	- 70	- △39	- △ 7	- +37
連結		7,309 521	5,440 1,114	12,750 1,636	12,350 1,260	+400 +376	8,697 1,146	+4,052 +490

(註1)「売上高」は外部顧客に対する売上高を表示
(註2) 2026年度より、毎年3月末日以外を決算期とする当社連結子会社について、毎年3月末日へ決算期を変更しております。
2026年度第1四半期においては、当該連結子会社の6か月間（2026年1月1日から2026年6月30日）の損益を取り込んだものとなります。
(註3)2026年度のケミカルロジスティクス事業新設に伴い、これまでエネルギー事業に含めていた「石油製品船事業」・「ケミカル船事業」・「メタノール船事業」を除外しています。
(註4)2026年度にケミカルロジスティクス事業を新設、「石油製品船事業」・「ケミカル船事業」・「メタノール船事業」・「タンクターミナル事業」を含めています。
(註5)2026年度のケミカルロジスティクス事業新設に伴い、これまで製品輸送事業に含めていた「タンクターミナル事業」を除外しています。

MOL 商船三井 © 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

1 2026年度 上期経常損益　前回見通し比差異分析

前回見通し比　増減益要因（経常損益）

【概況・ダイジェスト】
コンテナ船・原油船・LPG船を中心に、市況が想定を上回り堅調に推移した結果、前回見通し比で増益。
（為替レート：上期実績：￥160.12/US＄　前回(8/7)予想：￥158.09/US＄　）

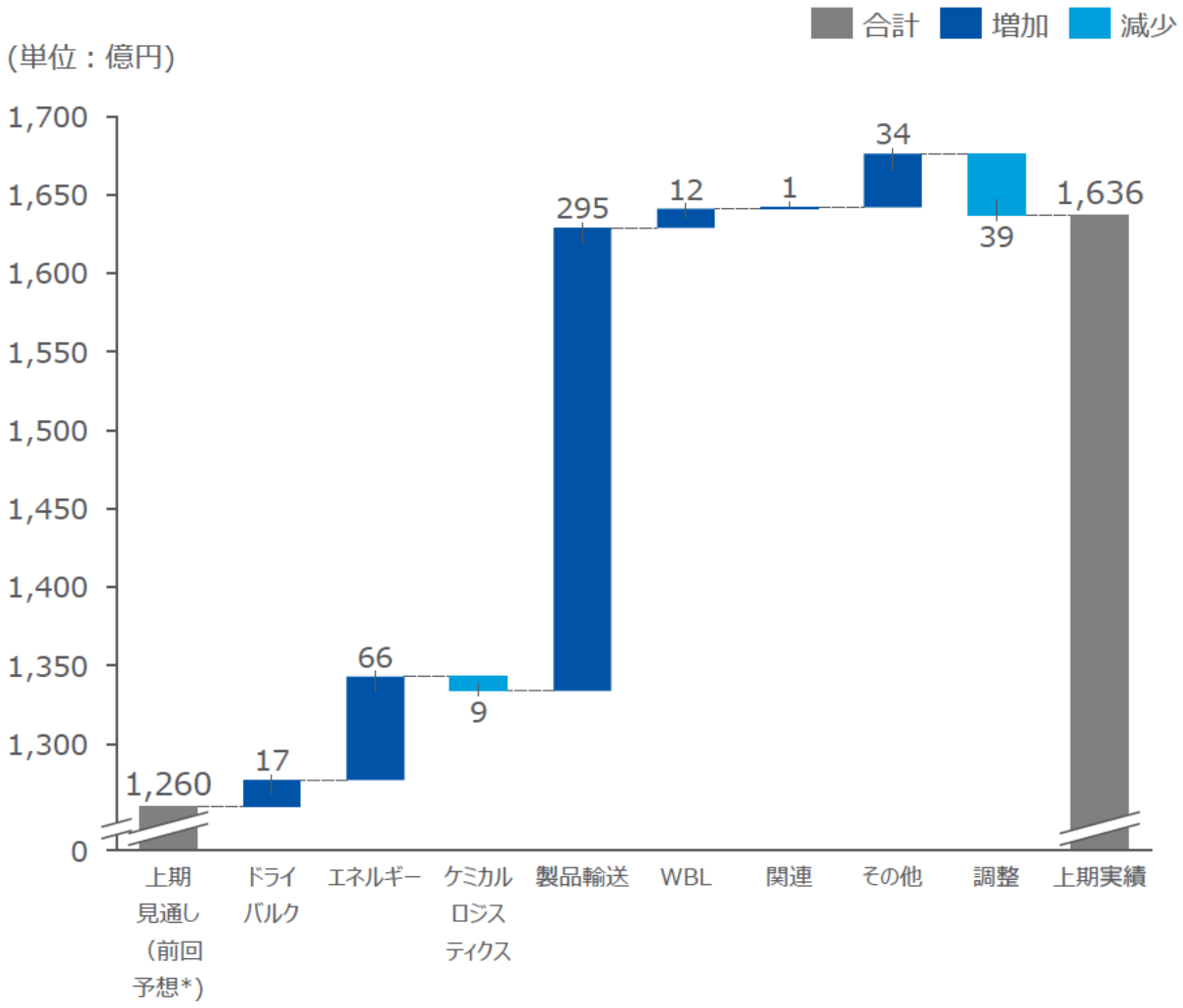
ドライバルク事業［197億円 (+17億円) ］
[+] Gearbulk Holding AG: パルプの堅調な荷動きの継続、プロジェクト貨物輸送の契約の積み上げ

エネルギー事業［336億円 (+66億円) ］
[+] 原油船・LPG船: 中東産貨物減による代替調達に伴うトンマイル増を背景とした市況上昇

ケミカルロジスティクス事業［120億円 （▲9億円) ］
[▲] メタノール船: 持分法適用会社Waterfront Shipping社業績の軟化

製品輸送事業　［865億円 （+295億円) ］
[＋] コンテナ船: 旺盛な貨物需要を背景とした運賃市況の上昇

ウェルビーイングライフ事業　［12億円 （+12億円) ］
[+] 不動産: インド　キャピタルゲイン投資における売却益増
[▲] クルーズ: 就航準備費用の増加等



*2026年度1Q決算発表時 (2026年8月7日)の予想

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

2 2026年度 連結業績予想

前提 2027年3月末まで、ホルムズ海峡周辺は航行不可の状態が続く。

＊2026年度1Q決算発表時（2026年8月7日)の予想

（単位: 億円）	上期 実績 (註3)	上期 前回見通し*	上期 差異	下期 見通し	下期 前回見通し*	下期 差異	通期 見通し	通期 前回見通し*	通期 差異
売上高	12,750	12,350	+400	10,949	9,950	+999	23,700	22,300	+1,400
営業損益	726	650	+76	783	700	+83	1,510	1,350	+160
経常損益	1,636	1,260	+376	1,313	990	+323	2,950	2,250	+700
税金等調整前当期純損益	1,942	1,590	+352	1,507	1,210	+297	3,450	2,800	+650
親会社株主に帰属する当期純損益	1,793	1,370	+423	1,206	1,030	+176	3,000	2,400	+600
為替 (註1)	¥160.12/$	¥158.09/$	+¥2.03/$	¥155.05/$	¥155.00/$	+¥0.05/$	¥157.58/$	¥156.55/$	+¥1.03/$
燃料単価(VLSFO) (註1･2)	$844/MT	$791/MT	+$52/MT	$820/MT	$560/MT	+$260/MT	$832/MT	$676/MT	+$156/MT
燃料単価(全油種) (註1･2)	$865/MT	-	-	-	-	-	-	-	-

【参考】前年度実績	上期	下期	通期
売上高	8,697	9,553	18,250
営業損益	718	551	1,270
経常損益	1,146	612	1,758
税金等調整前当期純損益	1,349	1,040	2,390
親会社株主に帰属する当期純損益	1,162	970	2,132
為替(註1)	¥146.09/$	¥153.73/$	¥149.91/$
燃料単価(VLSFO) (註1･2)	$531/MT	$529/MT	$531/MT
燃料単価(全油種) (註1･2)	$546/MT	$554/MT	$550/MT

(註1) 期中平均
(註2) 平均補油単価
(註3) 2026年度より、毎年3月末日以外を決算期とする当社連結子会社について、毎年３月末日へ決算期を変更いたします。
2026年度連結業績予想においては、当該連結子会社の15か月間(2026年１月１日から2027年３月31日)の損益を取り込んだものとなります。

(参考) 通期見通し(経常損益)へのSensitivity	
2026年度2Q決算時点	
為替：	±22億円/¥1/US$
燃料単価： (VLSFO)	±0.3億円/$1/MT

2026年度配当は、1株当たり中間配当100円、期末配当105円*、通期205円を予定。

*期末配当105円は株式分割考慮前の金額（2027年1月1日を効力発生日として1株を3株に分割）。分割後ベースでは35円に相当。

MOL 商船三井 © 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

2 2026年度 連結業績予想（セグメント別）

上段	売上高(註1)
下段	経常損益

＊2026年度1Q決算発表時（2026年8月7日)の予想

（単位: 億円）

		上期			下期			通期			2025年度				
		実績 (註2)	前回見通し*	差異	見通し	前回見通し*	差異	見通し	前回見通し*	差異	1Q	2Q	上期	下期	通期
ドライバルク事業	ドライバルク船 (石炭船を含む)	3,267	3,140	+127	2,732	2,360	+372	6,000	5,500	+500	1,071	1,112	2,184	2,372	4,557
		197	180	+17	192	70	+122	390	250	+140	△ 34	35	1	107	108
エネルギー事業 (註3)	原油船、LPG・アンモニア船、風力、 オフショア、LNG・エタン船、ガスインフラ	1,890	1,770	+120	1,809	1,530	+279	3,700	3,300	+400	613	605	1,219	1,331	2,551
		336	270	+66	443	280	+163	780	550	+230	220	88	308	23	332
ケミカルロジスティクス事業 (註4)	石油製品船、ケミカル船、 メタノール船、タンクターミナル	2,485	2,400	+85	1,654	1,600	+54	4,140	4,000	+140	651	650	1,302	1,635	2,937
		120	130	△9	89	80	+9	210	210	0	70	73	144	△ 6	137
製品輸送事業 (註5)	コンテナ船、自動車船、 港湾・ロジスティクス	3,876	3,800	+76	3,533	3,300	+233	7,410	7,100	+310	1,500	1,496	2,997	3,187	6,184
		865	570	+295	564	510	+54	1,430	1,080	+350	307	352	660	385	1,046
うち、コンテナ船事業		543	540	+3	466	460	+6	1,010	1,000	+10	222	217	440	423	863
		734	440	+294	375	140	+235	1,110	580	+530	73	166	239	55	295
ウェルビーイングライフ事業	不動産、フェリー 内航RORO船、クルーズ船	707	730	△22	762	770	△7	1,470	1,500	△30	291	317	609	613	1,222
		12	0	+12	△ 2	30	△32	10	30	△20	6	1	8	△ 35	△ 27
うち、不動産事業		306	300	+6	283	280	+3	590	580	+10	108	120	229	259	489
		92	50	+42	37	70	△32	130	120	+10	18	18	37	30	67
関連事業	曳船、商社等	347	350	△2	332	300	+32	680	650	+30	137	140	277	305	582
		21	20	+1	18	10	+8	40	30	+10	5	7	12	24	36
その他		175	160	+15	124	90	+34	300	250	+50	60	47	108	106	214
		54	20	+34	5	10	△4	60	30	+30	14	2	17	26	44
調整 (消去・全社)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		30	70	△39	△0	0	△0	30	70	△40	△ 68	61	△ 7	87	80
連結		12,750	12,350	+400	10,949	9,950	+999	23,700	22,300	+1,400	4,327	4,370	8,697	9,553	18,250
		1,636	1,260	+376	1,313	990	+323	2,950	2,250	+700	522	623	1,146	612	1,758

(註1)「売上高」は外部顧客に対する売上高を表示
(註2) 2026年度より、毎年3月末日以外を決算期とする当社連結子会社について、毎年３月末日へ決算期を変更いたします。
2026年度連結業績予想においては、当該連結子会社の15か月間(2026年１月１日から2027年３月31日)の損益を取り込んだものとなります。
(註3) 2026年度のケミカルロジスティクス事業新設に伴い、これまでエネルギー事業に含めていた「石油製品船事業」・「ケミカル船事業」・「メタノール船事業」を除外しています。
(註4) 2026年度にケミカルロジスティクス事業を新設、「石油製品船事業」・「ケミカル船事業」・「メタノール船事業」・「タンクターミナル事業」を含めています。
(註5) 2026年度のケミカルロジスティクス事業新設に伴い、これまで製品輸送事業に含めていた「タンクターミナル事業」を除外しています。

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

2 2026年度 通期経常損益 前回見通し比差異分析

前回見通し比 主な増減益要因（経常利益）

【概況・ダイジェスト】

コンテナ船・原油船・LPG船・ドライバルク船を中心に市況が想定を上回り推移。通期見通しを引き上げ。（為替前提：前回8/7発表 ¥156.55/US$から、通期¥157.58/US$に変更。）

ドライバルク事業 ［390億円 （+140億円）］

[+] ケープサイズ: 鉄鉱石・ボーキサイトの堅調な出荷により市況が底堅く推移
[+] パナマックス以下: 石炭、穀物および鋼材などの堅調な荷動きにより市況が底堅く推移
[+] Gearbulk: パルプの堅調な荷動きの継続、プロジェクト貨物輸送の契約の積み上げ

エネルギー事業 ［780億円 （+230億円）］

[+] 原油・LPG船:中東産貨物減による代替調達に伴うトンマイル増を背景とした市況上昇
[▲] ガスインフラ事業: 既存船の売船延期に伴う運航費用増や入渠費用増

ケミカルロジスティクス事業 ［210億円 （±0億円）］

[+] ケミカルタンカー船: 北米発航路の市況が底堅く推移
[▲] メタノール船: 持分法適用会社Waterfront Shipping社業績の軟化

製品輸送事業 ［1,430億円 （+350億円）］

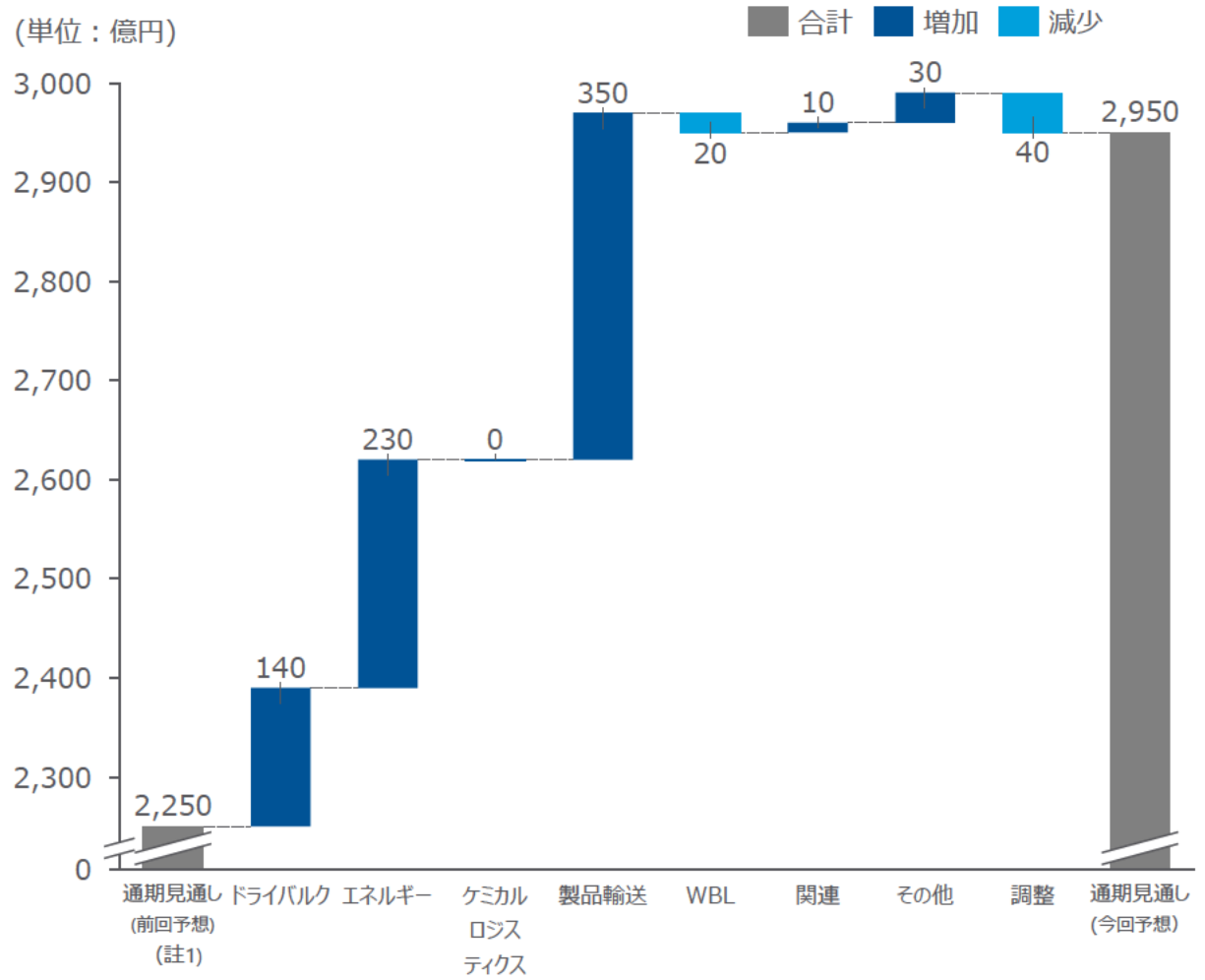
[+] コンテナ船: 旺盛な貨物需要を背景とした運賃市況の上昇
[▲] 自動車船: 中東情勢正常化遅れに伴う配船影響および燃料費増

ウェルビーイングライフ事業 ［10億円 （▲20億円）］

[+] 不動産: インド キャピタルゲイン投資における売却益増
[▲] クルーズ: 就航準備費用・燃料費増および一部集客回復の遅れ

関連事業 ［40億円 (+10億円)］

[+] 商社事業: 好調な燃料油販売



(註1)2026年度1Q決算発表時（2026年8月7日)の予想

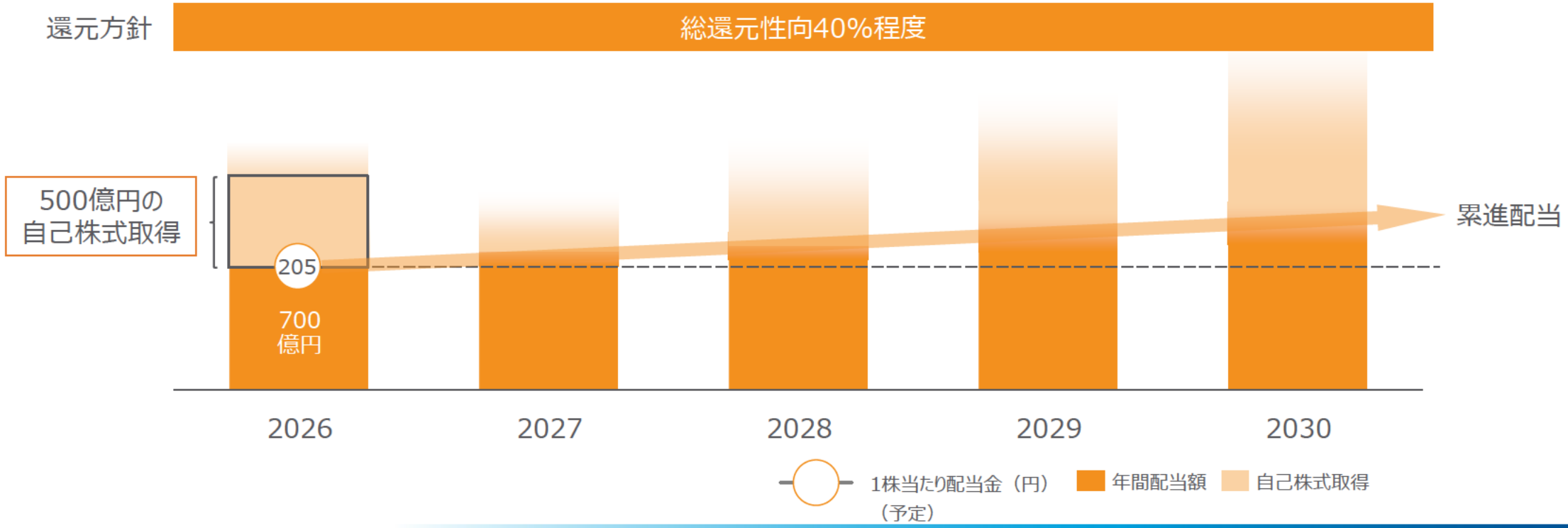
© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

3 2026年度 株主還元

BLUE ACTION 2035 Phase 2 での方針

- 2026年度より、205円/株を起点とする累進配当を導入
- 総還元性向40%を目途とする機動的な自己株式の取得を実施

2026年度	• 上記方針に則り、**500億円の自己株式取得**を実施（取得株式は消却予定） • 株主還元の充実と資本効率の改善を図る



© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

3 株式分割

当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、より投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大を図ることを目的に、株式分割を実施

普通株式1株を3株に分割

株式分割前



効力発生日：2027年1月1日

株式分割後



2026年度 1株当たり配当金（円/株）

中間配当	期末配当 (予定)
100円	株式分割前 105円 株式分割後 35円

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

3 2026年度 税前利益見通し

（単位: 億円）

		2026年度 税前利益見通し
ドライバルク事業	ドライバルク船（石炭船を含む）	430
エネルギー事業 (註1)	原油船、LPG・アンモニア船、風力、オフショア、LNG・エタン船、ガスインフラ	910
ケミカルロジスティクス事業 (註2)	石油製品船、ケミカル船、メタノール船 タンクターミナル	230
製品輸送事業(註3)	コンテナ船、自動車船、港湾・ロジスティクス	1,530
うち、コンテナ船事業		1,120
ウェルビーイングライフ事業	不動産、フェリー・内航RORO船、クルーズ船	130
うち、不動産事業		250
関連事業	曳船、商社等	40
その他		160
調整 (消去・全社)		20
連結		3,450

（単位: 億円）

		2025年度 税前利益実績
ドライバルク事業	ドライバルク船（石炭船を含む）	122
エネルギー事業	タンカー、風力、オフショア、LNG・エタン船、ガスインフラ	693
製品輸送事業	コンテナ船、自動車船、港湾・ロジスティクス	1,103
うち、コンテナ船事業		384
ウェルビーイングライフ事業	不動産、フェリー・内航RORO船、クルーズ船	△ 10
うち、不動産事業		78
関連事業	曳船、商社等	35
その他		324
調整 (消去・全社)		125
連結		2,390

(註1)2026年度のケミカルロジスティクス事業新設に伴い、これまでエネルギー事業に含めていた「石油製品船事業」・「ケミカル船事業」・「メタノール船事業」を除外しています。

(註2)2026年度にケミカルロジスティクス事業を新設、「石油製品船事業」・「ケミカル船事業」・「メタノール船事業」・「タンクターミナル事業」を含めています。

(註3)2026年度のケミカルロジスティクス事業新設に伴い、これまで製品輸送事業に含めていた「タンクターミナル事業」を除外しています。

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

3 2026年度 税前利益 変動要因

安定収益型事業の拡大を基盤とした戦略的なリスクテイクにより、好市況下の収益機会を着実に取り込む。
地政学リスクの高まりによる調達先・輸送航路の再編により、中長期的にも当社を取り巻く事業環境に変化。

税引前当期純利益 （単位：億円）	Phase 2 策定時 2026年度利益計画	2026年度 最新利益見通し	主な定性要因
ドライバルク事業	140	430	ケープサイズ船の市況エクスポージャーを拡大。堅調な荷動き、減速航海、限定的な新造船供給を背景とする好市況を取り込み。西アフリカ発の貨物需要は今後も堅調な見込み。
エネルギー事業	560	910	中東情勢を受けた代替調達による市況上昇の恩恵を原油船・LPG船で享受。情勢正常化後も調達先の多様化が進む見込み。
ケミカルロジスティクス事業	90	230	中東情勢を受けた代替調達によるケミカルタンカー市況上昇を享受。化学製品サプライチェーンの再構築の要請が強まる中、海上・陸上輸送と貯蔵の連携強化により収益拡大を図る。
製品輸送事業 （うち、コンテナ船事業）	940 (310)	1,530 (1,120)	コンテナ船： 港湾混雑・地政学・気象要因に伴う実質的な船腹供給の制約と、堅調な貨物需要を背景に、運賃市況は堅調に推移。コンテナ船市場の需給の決定要因がより複雑化。 自動車船：中国からのEV輸出を始めとして、完成車輸送需要は堅調に推移。一方、当社船隊は配船効率低下による運航費用の増加が課題。
ウェルビーイングライフ事業 （うち、不動産事業）	160 (220)	130 (250)	不動産：インフレ環境下において着実な賃上げおよびアセットリサイクルを推進。 クルーズ船：SAKURA就航準備・燃料費用が想定比増加。日本のクルーズ人口拡大を捉え、2隻の最適配船・販売基盤の強化により、収益回復を狙う。
関連事業・その他	110	220	
合計	**2,000**	**3,450**	

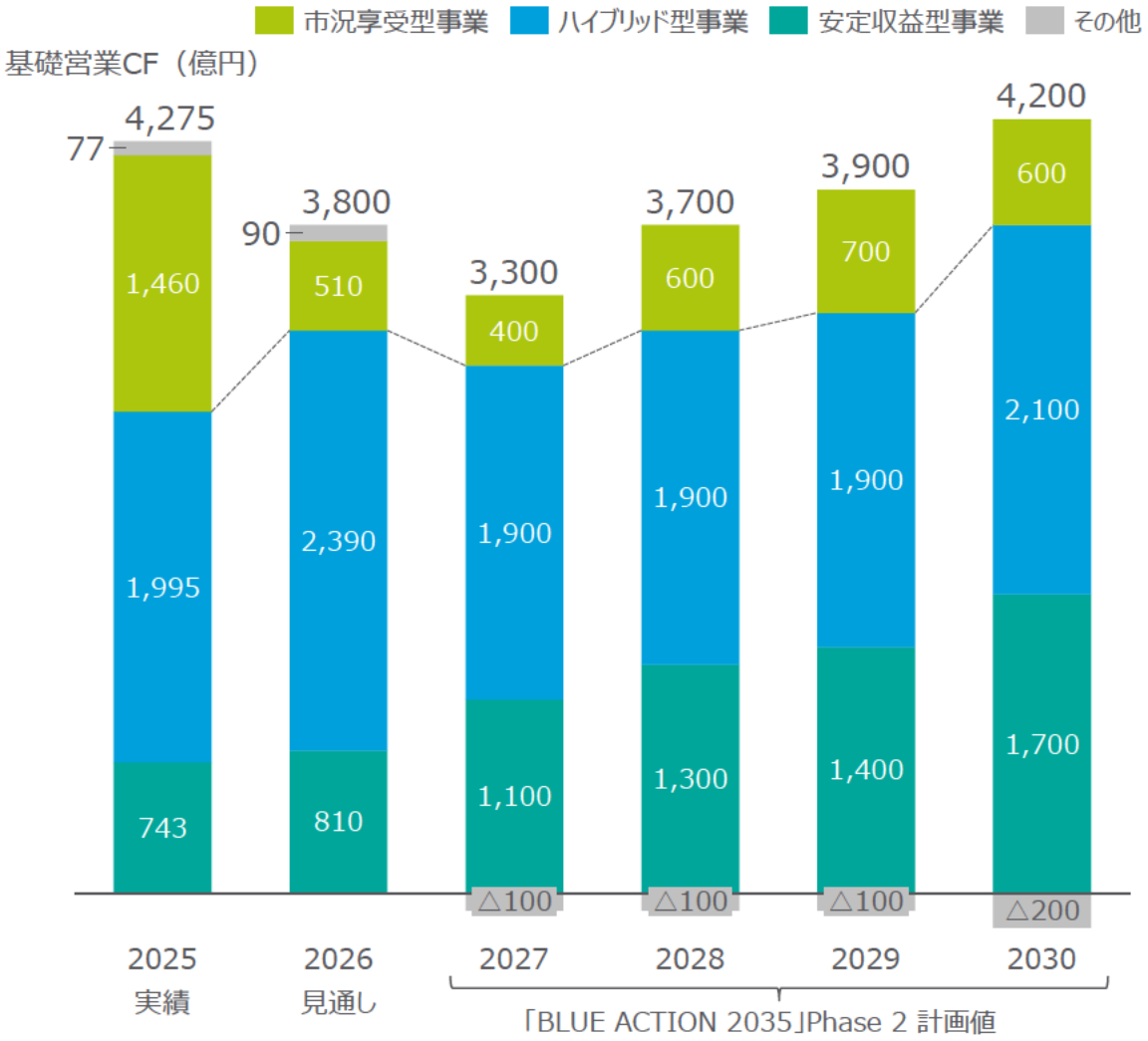
MOL 商船三井 © 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

3 2026年度 基礎営業CF見通し

*2026年度1Q決算発表時(2026年8月7日)の予想

(単位:億円)	2026年度 基礎営業CF(註1) 見通し	前回見通し*	差異
市況享受型事業	510	400	+110
ハイブリッド型事業	2,390	2,210	+180
安定収益型事業	810	900	△90
その他	90	90	0
合計	3,800	3,600	+200

当社グループの事業	海運市況との相関性	
コンテナ船	市況享受型 ＝高ボラティリティ	
ドライバルク船、 タンカー、ケミカル船 自動車船	ハイブリッド型（新設） ＝中ボラティリティ	
LNG船、エタン船、 LNGインフラ、海洋、 タンクターミナル、 物流、不動産、フェリー	安定収益型 ＝低ボラティリティ	コア事業 ＝深化
脱炭素エネルギー、 風力、クルーズ、など		成長事業 ＝探索



(註1) 税前利益+償却費±特利損±持分法投資損益+持分法配当金-法人税等
但し、2027年度以降については新リース会計適用後の基礎営業CFから、リース負債の返済による支出額（約1,000億円/年）を控除

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

3 Core KPI (Phase 2)

	目標		Phase 1 2025年度実績	2026年度見通し （2026年度 2Q決算時点）	Phase 2 2030年度	Phase 3 2035年度
財務KPI	税引前当期純利益 （括弧内はBA2035策定時）		2,390億円	3,450億円	4,200億円 （3,400億円）	5,000億円 （4,000億円）
財務KPI	ネットギアリングレシオ *1		1.11	1.02	1.0～1.1	0.9～1.0
財務KPI	ROE		7.7%	10.2%	10% 超	
財務KPI	（参考）	基礎営業キャッシュフロー（リース負債返済控除後） *2	*4,275*億円	*3,800*億円	*4,200*億円	*5,200*億円
財務KPI	（参考）	総アセット *1	*6.7*兆円	-	*7.7*兆円	*9.0*兆円
非財務KPI	環境	GHG排出原単位削減率（2019年比）	▲12.1%	-	-	▲45%
非財務KPI	安全	労災死亡事故ゼロ、重大事故ゼロ *3	達成	-	達成	
非財務KPI	人財	MGKP *4 在任者構成率（女性/グループ人財）	8.5%/30.1%	-	15%/35%	20%/40%
非財務KPI	人財	エンゲージメントのスコアが向上した組織の割合 *5	50.4%	-	80%	80%
非財務KPI	DX	価値創造業務のための時間創出率（2022年度比）	10.8%	-	20%	30%

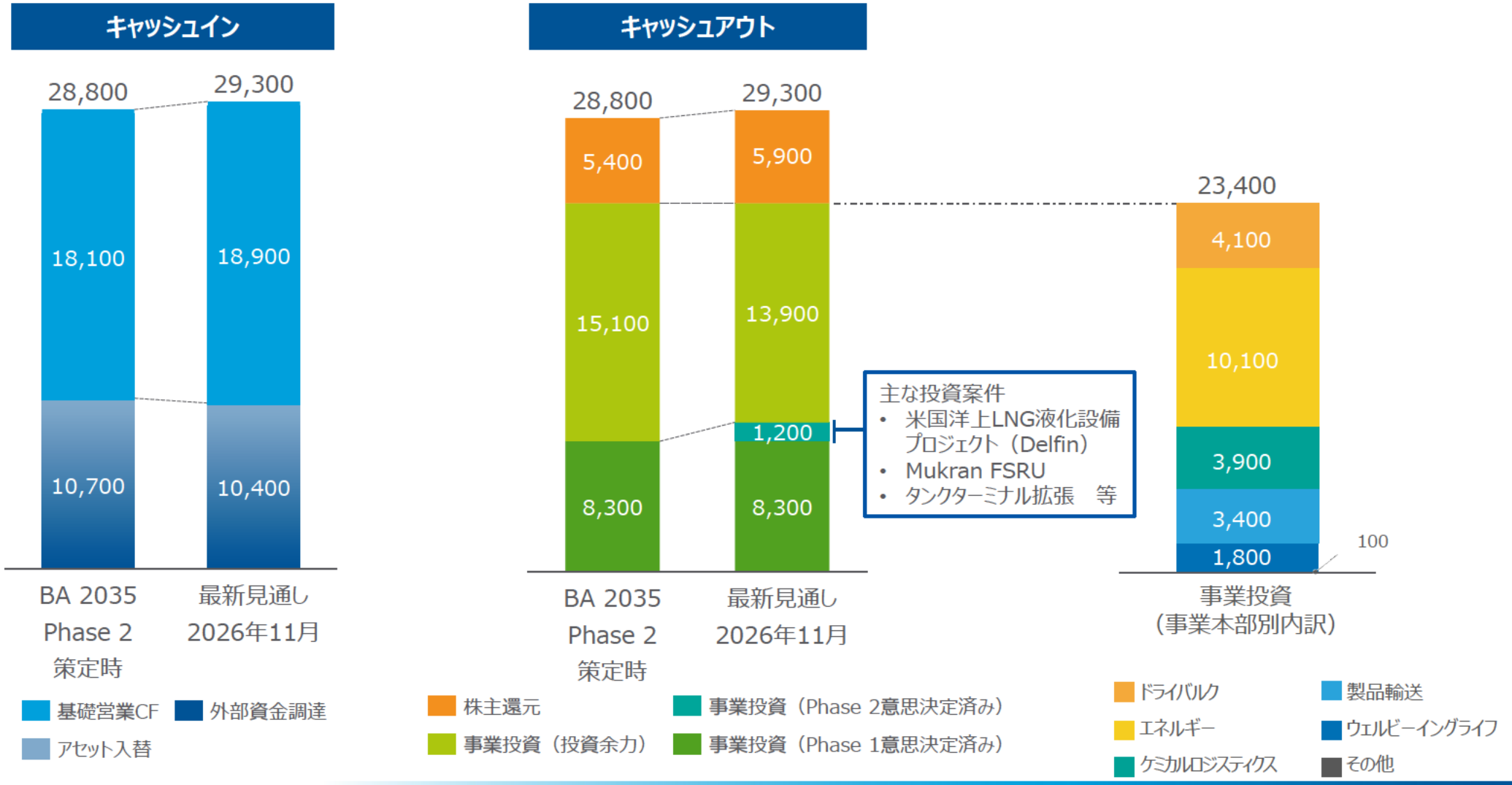
*1 有利子負債額および総アセットは、将来傭船料などオフバランス債務を含む
*2 税前利益+償却費±特利損±持分法投資損益+持分法配当金-法人税などより算出 但し、2027年度以降については新リース会計適用後の基礎営業CFから、リース負債の返済による支出額（約1,000億円/年）を控除
*3 4 Zero（重大海難事故・油濁による海洋汚染・労災死亡事故・重大貨物事故のゼロ）を含む
*4 MOL Group Key Positions。本社部長級として、グループ・グローバル問わず指定されたポスト
*5 2025年度はスコアが向上、2026年度以降はスコアが前年比向上もしくは良好（70以上）な組織の割合

MOL 商船三井 © 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

3 キャッシュアロケーション進捗

好市況を捉えた基礎営業CFの上振れによりキャッシュインが拡大し、総還元性向40%に基づいて株主還元の拡充に配分。

(単位：億円)



© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

(参考) BLUE ACTION 2035の取り組み進捗

戦略と課題	当社取り組み
ポートフォリオ　地域戦略	・2026-6-4　米国初・世界最大級の洋上LNG液化設備へ最終投資決定（ポートフォリオ/地域） ・2026-6-18　JERA向けアンモニア輸送船の長期定期用船契約を締結（ポートフォリオ） ・2026-9-17　新クルーズ船「MITSUI OCEAN SAKURA」が就航～ 三井オーシャンクルーズ2隻体制へ ～ (ポートフォリオ) ・2026-10-2　世界初の3元燃料仕様21万重量トン型鉱石専用船を用いた輸送プロジェクトに参画～Vale向け25年長期輸送契約を締結～ (ポートフォリオ) ・2026-10-29　ドイツ・Deutsche ReGas向けFSRUの長期用船契約を締結～ドイツおよび欧州のLNG輸入体制強化に貢献～（ポートフォリオ/地域)
環境	・2026-9-8　世界初、大型商船向け水素燃料エンジンの陸上運転試験に成功しました-温室効果ガス（GHG）の排出量を従来比で95%以上削減しました- ・2026-9-10　世界初のウインドチャレンジャー搭載LNG船を命名～Chevron向け新造船へ2基搭載、海運の脱炭素化を加速～ ・2026-9-15　国内CCS事業の実現に向けた標準型低圧液化CO2輸送船の基本設計承認（AiP）を取得～MILESを活用した標準設計スキーム初の成果～ ・2026-10-30　世界初のアンモニア燃料ケープサイズバルカー3隻を共同命名～2050年ネットゼロ・エミッション実現に向けた次世代燃料船の新たな船出～
安全　人財　DX	・2026-6-9　船上ITインフラを標準化、新造船から導入開始 ～安全運航の強化・船員の働きやすさ向上～（安全/DX） ・2026-7-1　船舶運航の意思決定を高度化するAIプラットフォームを日本IBMと共同開発 ～複雑化する運航環境における安全運航支援を強化～（DX） ・2026-9-1　船舶管理会社6社の統合を完了～200隻超の船舶管理を一元化、安全体制を強化～（安全/人財/DX)

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

(参考) 2026年度第2四半期の竣工船実績

■ 26年度第2四半期に竣工した船の実績（傭船、J/V保有船含む） ー 合計7隻

■ドライバルク事業



ハンディサイズ：TIGER PATHFINDER (7月)

■製品輸送事業



自動車船：SAPPHIRE ACE(7月)

■ 26年度第2四半期新規就航クルーズ船

■WBL事業



クルーズ船：MITSUI OCEAN SAKURA(9月)

■エネルギー事業：LNG船



GREENERGY CLOUD(7月)



AL SABSAB(8月)



GAMY VANGUARD(9月)



FUJIN SAILOR(9月)



BARTHY VANGUARD(9月)

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

(参考) 2026年度第2四半期以降　不動産事業竣工予定

■ウェルビーイングライフ事業

「Atrium Place」



所在地：インド･グルグラム　中央ビジネス地区

用途：オフィス･飲食･物販店舗

竣工時期：11月以降

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

ドライバルク船市況（スポット傭船料）　［補足資料1］

1．2025年度(実績)

（単位： US$/日）

船型	2025年度						
	上期			下期			通期
当社(単体)及び商船三井ドライバルク運航船に関わる市況	2025年4月-9月			2025年10月-2026年3月			平均
	4-6月	7-9月		10-12月	1-3月		
ケープサイズ	18,600	24,800	21,700	29,300	23,400	26,400	24,000
パナマックス	11,800	15,900	13,900	16,000	15,400	15,700	14,800
スープラマックス	10,100	15,100	12,600	15,100	12,500	13,800	13,200
ハンディサイズ	10,600	13,000	11,800	14,800	12,400	13,600	12,700

2．2026年度(実績・見通し)

（単位： US$/日）

船型	2026年度						
	上期			下期			通期
当社(単体)及び商船三井ドライバルク運航船に関わる市況	2026年4月-9月			2026年10月-2027年3月			平均
	4-6月	7-9月		10-12月	1-3月		
ケープサイズ	39,900	44,900	42,400	38,000	28,000	33,000	37,700
パナマックス	19,200	20,300	19,800	21,000	17,000	19,000	19,400
スープラマックス	17,300	19,200	18,300	21,000	17,000	19,000	18,600
ハンディサイズ	14,900	16,500	15,700	17,000	14,500	15,800	15,700

（註）
1）黒字は一般市況実績。
2）青字は見通し。見通しは、フリー船（スポット契約や２年未満の短期契約に従事）の損益予想において参照する市況水準。但し、荷主と運賃を合意済みの場合は合意運賃を損益予想に反映。
3）ケープサイズは5航路、パナマックスは5航路、スープラマックスは10航路、ハンディサイズは7航路の平均。
(ケープサイズは、2025年度は「18万重量トン型」(180型)、2026年度は「18万2000重量トン型」(182型)について記載)

MOL 商船三井 © 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

タンカー市況（スポット傭船料換算）　［補足資料2］

1．2025年度(実績)

（単位： US$/日）

船型	対象航路	2025年度						
		上期			下期			通期
		2025年4-9月			2025年10月-2026年3月			平均
		4-6月	7-9月		10-12月	1-3月		
原油船（VLCC）	全航路	45,500	53,300	49,400	105,900	165,200	135,500	92,500
石油製品船（MR）	主要5航路	18,300	20,500	19,400	23,600	30,600	27,100	23,300
LPG船（VLGC）	全航路	45,300	67,900	56,600	57,100	71,200	64,100	60,400

2．2026年度(実績・見通し)

（単位： US$/日）

船型	対象航路	2026年度						
		上期			下期			通期
		2026年4-9月			2026年10月-2027年3月			平均
		4-6月	7-9月		10-12月	1-3月		
原油船（VLCC）	全航路	145,000	281,000	213,000	237,000	300,000	268,500	240,800
石油製品船（MR）	主要5航路	33,100	31,900	32,500	22,000	19,000	20,500	26,500
LPG船（VLGC）	全航路	130,000	156,300	143,100	90,000	90,000	90,000	116,600

（註）
1）黒字は一般市況実績。
2）青字は見通し。見通しは、スポット船の損益予想において参照する市況水準。但し、荷主と運賃を合意済みの場合は合意運賃を損益予想に反映。
3）石油製品船の市況は、欧州－北米、北米－欧州、シンガポール－豪州、韓国－シンガポール、インド－日本の主要5航路単純平均。

MOL 商船三井 © 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

ケミカル船市況（定期傭船料水準）　［補足資料3］

1．2025年度(実績)

（単位： US$/日）

	2025年度						
	上期			下期			通期
	1Q	2Q		3Q	4Q		
定期傭船料（傭船期間1年ベース）	18,500	18,500	18,500	18,000	18,000	18,000	18,250

2．2026年度(実績・見通し)

（単位： US$/日）

	2026年度				
	上期			下期	通期
	1Q	2Q			
定期傭船料（傭船期間1年ベース）	19,000	19,000	19,000	18,500	18,750

（註）

1）20,000DWT型ケミカルタンカー（概ね18,000～22,000DWT級のステンレスケミカルタンカー）の定期傭船料水準。

2）青字は見通し。本資料に記載の定期傭船料水準は、マーケットレポートおよび市場成約実績等に基づく当社推定の市場中央値です。市場環境、需給動向、船舶仕様、契約期間その他の契約条件により、実際の定期傭船料は大きく変動する可能性があります。

MOL 商船三井 © 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

コンテナ運賃市況（CCFI*）　［補足資料4］

1．2025年度（実績）

（1998年1月1日＝1,000）

対象航路	2025年度						
	上期 2025年4-9月			下期 2025年10月-2026年3月			通期 平均
	4-6月	7-9月		10-12月	1-3月		
北米西岸向け	941	861	901	797	834	815	858
北米東岸向け	1,076	1,055	1,066	902	934	918	992
欧州向け	1,480	1,683	1,581	1,395	1,516	1,455	1,518
南米向け	693	896	794	629	538	583	689

2．2026年度（実績）

（1998年1月1日＝1,000）

対象航路	2026年度						
	上期 2026年4-9月			下期 2026年10月-2027年3月			通期 平均
	4-6月	7-9月		10-12月	1-3月		
北米西岸向け	1,005	1,590	1,298				
北米東岸向け	1,134	1,813	1,474				
欧州向け	1,677	2,287	1,982				
南米向け	926	1,498	1,212				

*China Containerized Freight Index

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

自動車船 輸送台数 ［補足資料5］

1．2025年度（実績）

(単位： 千台)

	2025年度						
	上期			下期			通期
	1Q	2Q		3Q	4Q		
合計（欧州域内近海輸送も含む）	719	713	1,432	732	711	1,442	2,874

2．2026年度（実績・見通し）

(単位： 千台)

	2026年度				
	上期			下期	通期
	1Q	2Q			
合計（欧州域内近海輸送も含む）	730	723	1,453	1,508	2,961

*青字は見通し

MOL 商船三井 © 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

船隊構成および不動産

［補足資料6］

（隻数）

			2026年3月末	2026年9月末	2027年3月末（見通し）
ドライバルク事業	ケープサイズ		73	72	79
	中小型一般バルカー	パナマックス	18	18	10
		スープラマックス	48	48	44
		ハンディサイズ	29	30	35
		（小計）	95	96	89
	木材チップ船		39	39	39
	石炭船		31	37	35
	内航船（内航RORO船除く）		28	28	27
	多目的船		38	42	42
	オープンハッチ船		56	53	52
	（小計）		360	367	363
		（内、市況エクスポージャー）	63	71	73
エネルギー事業	タンカー	原油タンカー	38	38	39
		LPG・アンモニア船	23	24	25
	（小計）		61	62	64
		（内、市況エクスポージャー）	8	9	9
	LNG・エタン船ガスインフラ	LNG船	103	103	107
		エタン船	6	7	9
		LNG燃料供給船	3	3	3
		LNG発電船	1	1	1
		FSU・FSRU	8	8	8
	（小計）		121	122	128
		（内、市況エクスポージャー）	1	1	1
	FPSO		11	11	10
	サブシー支援船		3	3	3
	CTV(Cargo Transfer Vessels)		2	2	2
	ケーブル敷設船		2	2	2
	作業員輸送船（Crew Transfer Vessels）		2	2	2
	洋上風力支援船（SOV）		1	2	3
ケミカルロジスティクス事業	石油製品船		19	20	17
	ケミカル船		112	112	111
	メタノール船		19	19	19
	（小計）		150	151	147
		（内、市況エクスポージャー）	112	112	111
製品輸送事業	自動車船		109	109	103
	コンテナ船		27	27	25
ウェルビーイングライフ事業	フェリー・内航RORO船		14	14	14
	クルーズ船		3	2	2
関連事業・その他	曳船		53	53	54
	その他		11	11	12
合計			930	940	934

註1）エネルギー事業に関しては船種、及び当社の調達・建造・資金調達への関与の度合いに基づき、主として持分法適用会社の船腹も含めた隻数を掲載しております。
註2）部分的に保有している船も1隻とカウント。
註3）『市況エクスポージャー』＝中長期調達船で、2年以上の契約が付いていない船。
註4）コンテナ船は、ONE社フリートのうち、当社が保有または傭船に関与するもののみを表示。ONE社フリート構成については、同社開示資料をご参照ください。
註5）これまで「エネルギー事業」に含めていた「石油製品船」・「ケミカル船」・「メタノール船」を、2026年度以降は「ケミカルロジスティクス事業」に含めています。

ダイビル所有棟数・面積

物件数(棟)

	2026年3月末	2026年9月末
大阪	12	12
東京	19	19
札幌	0	0
海外	7	8
合計	38	39

空室率(%)

	2026年9月末
大阪	3.2
東京	0.2

延床面積(千㎡)

	2026年3月末	2026年9月末
大阪	332	332
東京	273	273
札幌	0	0
海外	164	190
合計	769	795

註）上記物件数および面積は、住居系物件を除いたオフィス・商業物件（一部所有物件含む）。
また、延床面積には、ダイビル持分面積のみ算入。

© 2026 Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.


MOL
商船三井